

日本国内で豚コレラの感染が広がっています。感染防止に向け、農水省はワクチン接種が可能になるように防疫指針を改定する方針を決めました。

- ① 現在、ワクチンは全部で何頭分備蓄されていますか。

頭分

- ② ワクチンを先行して活用しようとしているのは何頭分ですか。

頭分

- ③ ワクチンを接種するかどうかを最終的に判断するのは誰ですか。

[]

- ④ 現農林水産大臣はどなたですか。
(2019年9月24日現在)

[]

豚コレラ ワクチン 2カ月以内に 農相 50万頭分を先行接種

江藤拓農相は24日の閣議後の記者会見で、感染が広がる豚コレラのワクチン接種種について、今後2カ月以内に開始できるとの見解を示した。農林水産省は近く廃棄する予定だった50万頭分のワクチンが11月末までの2カ月程度に限って有効だと確認した。この50万頭分を先行して活用する方針だ。

農水省によるとワクチンは現在100万頭分を備蓄しているが、これとは別に使用期限が9月末に迫り廃棄する予定だった50万頭分を科学的に検証した。江藤氏は「効果も安全性も担保できるというメーカーの回答なので、現実には優先して使用することになるのではないか」と述べた。

農水省は感染拡大の防止に向け、ワクチン接種が可能になるよう防疫指針を改定する方針を既に決めた。同日午後には改定方針を確認する防疫対策本部の会合を開く。

ワクチンを接種する地域の選定については、有識者

会議の意見を踏まえて議論を進める。対象となる地域の都道府県知事がワクチンを接種するかどうかを最終的に判断する仕組みにする方向だ。

江藤氏は会見で「発生から1年が経過し、都道府県や専門家の議論がなされている」と述べ、接種までの期間を可能な限り短縮する意向も改めて示した。

豚コレラは豚やイノシシに感染する伝染病。昨年9月に国内では26年ぶりに発生を確認した。